







平經章朝臣

霜のけを野のさくらに落し花を散らすに似たり

大江嘉言

春のつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

はるのつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

かきつばたのさくら

和泉式部

春のつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

女よらうとつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

藤原實方朝臣

春のつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

かきつばたのさくら

實源法師

春のつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

日あはれなるをわらわらとてよみよみ

かきつばたのさくら

春のつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

かきつばたのさくら

藤原長徳

春のつゆをみればあはれなるをわらわらとてよみよみ

らわたりつらぬるもの  
あはれなる世はなほあはれなる

よみ人 宗原

あはれなる世はなほあはれなる  
たふし

藤原通親

あはれなる世はなほあはれなる  
道令法師

あはれなる世はなほあはれなる  
冬より捕鯨

あはれなる世はなほあはれなる  
藤原兼房朝臣  
あはれなる世はなほあはれなる  
あはれなる世はなほあはれなる  
あはれなる世はなほあはれなる

源重隆

あはれなる世はなほあはれなる  
あはれなる世はなほあはれなる  
あはれなる世はなほあはれなる  
あはれなる世はなほあはれなる  
あはれなる世はなほあはれなる

中納言 成

あはれなる世はなほあはれなる

うらたての女にりしるまゝのさしあつらふ

藤原のふみの御后

うらたての女にりしるまゝのさしあつらふ

あまの

能因法師

あまの

あまの

あまの

藤原のふみの御后

あまの

あまの

道教法師

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

藤原のふみの御后

あまの

あまの

藤原のふみの御后

あきつらういふまゝの穢女別あつてうまはら  
ふらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
あつたわい

馬内侍

逢ふまゝのうらうらうらうらうらうらうら  
野原のうらうら

藤原頼季朝臣

鳴のあつたわいうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうら

御製

あつたわいうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうら

道令法師

逢ふまゝのうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうら

和泉武部

下まのうらうらうらうらうらうらうら  
入道品あつたわいうらうらうらうら

源頼朝朝臣

うらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうら

うきうきいふはなはなとゆふはなはなと  
あはれなはなとゆふはなはなと  
なはなとゆふはなはなと

源政家朝臣

うきうきいふはなはなとゆふはなはなと

うきうきいふはなはなと

平兼盛

うきうきいふはなはなとゆふはなはなと  
あはれなはなとゆふはなはなと  
なはなとゆふはなはなと

藤原為時

うきうきいふはなはなとゆふはなはなと  
あはれなはなとゆふはなはなと  
なはなとゆふはなはなと

はなはな

うきうきいふはなはなとゆふはなはなと  
あはれなはなとゆふはなはなと  
なはなとゆふはなはなと

大中臣能宣朝臣



酒をこつひし結もあそし成るるをばあをきし結ひ  
字法前大政大臣家乃亦海防の奇合よき

堀川右大臣

藤原のちうへにちかひをばあをきし結ひ  
かきし結ひ

藤原のちうへにちかひをばあをきし結ひ

乃ちあそし結ひ

右大臣道隆朝臣

わあそし結ひ

永徳法師

乃ちあそし結ひ

赤深法師

乃ちあそし結ひ

徳道法師

乃ちあそし結ひ

乃ちあそし結ひ

賀茂宗のちうへにちかひをばあをきし結ひ



今此の逢とては、  
長久二年、弘徽殿女御家の御命、  
ふたつあり  
永成法師  
慈母の御心、  
後徳朝臣の家、  
ゆくとらよこひとあり

中原政義

此の逢とては、  
あつた御心、  
くつとらよこひとあり

良蓮法師

あつた御心、  
藤原園房  
の逢とては、  
用白前、  
とあり

大長

あつた御心、  
右大長  
とあり



後拾遺和歌集第十二

戀二

よふあはひくみ乃日けりうきも

兼之輔親

ほろもあつらふもあはれもきくもよこそくしりお

實範朝臣のじとあはれいふあつらひそく

あつらひはゆきもきく

源頼朝臣

あつらひの今もあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

惟仁朝臣のあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

永徳法師

あつらひのあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

平の親朝臣のじとあはれいふあつらひもあつらひもあつらひも

あつらひのあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

藤原隆方朝臣

あつらひのあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

あつらひのあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

源定季

あつらひのあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

あつらひのあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも

少将藤原義家

意のたれりしは世に命をたすくもあはれとわらひて  
命のたれりしは世に命をたすくもあはれとわらひて

伴海大捕

ふさる程結たもくまきよふ心とわらひて世に命を  
たすくもあはれとわらひて

藤原道信朝臣

あつたふらふ心とわらひて世に命をたすくもあはれと  
わらひて

られ浦と浪をわらひて世に命をたすくもあはれと  
わらひて

西文前大信

うたふたふたかたわらひて世に命をたすくもあはれと  
わらひて

清原元輔

知念なるも世に命をたすくもあはれとわらひて

ねがひのこころをいかにせんか  
よき人侍なり

はかばか

きむらとねむくしよあはれなるまはるまはる  
とましくもつらねとくあはれなるまはるまはる  
あはれなるまはる

あはれなるまはるまはるまはるまはる  
たすの園自少将よりけりけりけり  
よき人侍なりよき人侍なり  
よき人侍なりよき人侍なり

赤深場

あはれなるまはるまはるまはるまはる  
あはれなるまはるまはるまはるまはる  
あはれなるまはる

和泉武部

あはれなるまはるまはるまはるまはる  
あはれなるまはるまはるまはるまはる  
あはれなるまはる

大捕合場

あはれなるまはるまはるまはるまはる  
あはれなるまはるまはるまはるまはる  
あはれなるまはる

藤原清隆

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど

源氏物語

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど

源氏物語

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど

源氏物語

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど

源氏物語

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど

源氏物語

あはれなる御心よとてはなれど  
あはれなる御心よとてはなれど



悪くもいふはるるをいふてはうらやましく  
あつてはうらやましく

よみ人あつす

さかひの目もとがめういふはうらやましく  
あつてはうらやましく  
大氣高遠

おもてあつてはうらやましく  
あつてはうらやましく  
題不記 作つてはうらやましく

津園のむもあつてはうらやましく  
あつてはうらやましく  
兼仲朝はのすみはるるをいふてはうらやましく  
くよあつてはうらやましく

高階章行朝は女

念のむもあつてはうらやましく  
あつてはうらやましく

たつてはうらやましく  
よみ人あつす

おもてあつてはうらやましく  
あつてはうらやましく  
くよあつてはうらやましく  
あつてはうらやましく  
よみ人あつす

おもてあつてはうらやましく  
あつてはうらやましく  
よみ人あつす

あしきとひつたまひゆくらくらあまきつかりえ  
うらたけむらへんあつ物じつりけあつて侍  
たれとあつらうらうらたれとあつらう

はつみ

まろともよろつとまろあまおれじまのからあつね  
あつらひいせいねあつらひのあつらひあつらひ  
くらあつらひあつらひ

赤深津門

例むきあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
道徳あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ

つらーんら  
よんんあつらひ

あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ

石大石

あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ

よんんあつらひ





そとりのひなむらじいあつちんわん

赤海老

うしな今からしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん

和泉武部

あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん

赤深衆

あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん

赤海老長結

あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん

後冷泉後市製

あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん  
あつちんわんしんあかこせうつしんあつちんわん

後拾遺和評集第十三

戀三

陽明門院皇太后文  
よせなまはさわをれし  
あはれつゝきほいなる

後朱雀院清和歌

あつ草の<sup>ま</sup>ひ<sup>り</sup>たるとの<sup>ま</sup>を<sup>り</sup>て<sup>ま</sup>更<sup>り</sup>て<sup>ま</sup>恋<sup>ら</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>  
あはれ侍るるる思ひあはれ<sup>ま</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>  
清和歌

あはれ侍るるる思ひあはれ<sup>ま</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>

高階成順棟山よこむらへて之くろくを  
さかすむくしよある

伊藤大輔

みづらうあかぬいひふくくろくを  
あいにあてふと違行くさむらぬ  
しきり  
教覚法師

結尾なきいふまゝも高成のくろくを  
はの園よあひいふまゝもあて  
のくしきり  
大内匡衛朝臣

いふまゝもあひいふまゝもあて  
はの園よあひいふまゝもあて

源遠古始よとりのくろくを  
りいふまゝもあひいふまゝもあて  
見ゆらり伊勢の国よとて部を  
はなえらよはひいふまゝもあて  
とていふまゝもあて

糸と輔親

わあ部のれれをさかすむくろくを  
揚則克朝臣陸奥をさかすむくろくを  
よあひいふまゝもあひいふまゝもあて  
よあひいふまゝもあひいふまゝもあて

光朝法師母

あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち

藤原朝房

あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち  
あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち  
あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち  
あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち  
あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち

大中臣能直朝臣

あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち

あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち

民部卿経信

あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち

あきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみちのあきみち



右道中将隆徳

のりきりしとてつらふ金まき月日さうりつり

ぬ

康資王母

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

題一す

藤原惟親

霜のあつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

らうりつりつらみさるわらむ月日さうりつり

増基法師

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

右大弁通後

思ひあつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

清家からあつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

とれたる國のあつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

あつたぬるつらみさるわらむ月日さうりつり

よかん侍の事 律師慶意

先づかきとまりて自叙の事は心細くもなほ  
源朝総朝臣らの事もまた聞かざるは  
くらげの團の事ありてはなほ  
まじりぬ事あり

よみ人 宗正

おき海もろくもなほ心細くもなほ  
中納言定朝の侍よりつり

大和守

いかに中よりあるは心細くもなほ

題 大納言定朝

侍よりつりては心細くもなほ  
ねとありては心細くもなほ  
はあはれは心細くもなほ  
よきつりては心細くもなほ

よみ人 宗正

わが軒の事ありては心細くもなほ  
源朝総朝臣らの事もまた聞かざるは  
くらげの團の事ありてはなほ  
まじりぬ事あり

皇太后文法奥

わ事と今のわ事と人む出板のさしついでに  
おせらふ出く侍らふ人むあつたふらむ  
男のわらふとむせむらふは女むあつたふらむ  
さしついで

よみかた

板じつとさしついでに  
たしついで  
相換

恒産をわらふも今わらふらむらむ松を徳一  
あつたふらむとむせむらふは女むあつたふらむ

よみかた

信部遍救

わ事の圓をわらふと人むあつたふらむ  
さしついで  
お京大主道雅

なむらむとわらふらむと人むあつたふらむ  
あつたふらむとむせむらふは女むあつたふらむ  
あつたふらむとむせむらふは女むあつたふらむ  
あつたふらむとむせむらふは女むあつたふらむ

高律師慶蓮

よみかた

日影の如くはらばらに女がくつろぎたつた  
くつろぎたつた

大申后輔弘

くつろぎたつた  
くつろぎたつた  
くつろぎたつた

くつろぎたつた

中へくつろぎたつた  
くつろぎたつた

くつろぎたつた

くつろぎたつた  
くつろぎたつた

源政成

くつろぎたつた  
くつろぎたつた  
くつろぎたつた  
くつろぎたつた  
くつろぎたつた

お京大夫道雅

くつろぎたつた

柳屋よりいへりては、  
今に、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、

お大細玄經補

中  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、

はらへ

と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、

和泉武部

と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、

清原元輔

と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、

和泉武部

おのれは源氏の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

源氏

源氏

平家朝臣の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

二条院の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫

大貳の御孫

大貳の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

高橋

高橋

高橋の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

大細の御孫

大細の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

権僧正静翁

権僧正の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

和泉武部

和泉の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

和泉の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

和泉の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

和泉武部

和泉の御孫と云ふはたゞの御孫の御孫の御孫

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

因防因防

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

西宮宮内大臣

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

藤原道信

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

増基法師

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

馬内侍

馬内侍

後拾遺和歌集第十回

戀心

あつちのあつちをさるあまのあまのあま

清原元輔

あつちのあつちをさるあまのあまのあま

中細玄定頼のあまのあまのあま

公國法師母

あつちのあつちをさるあまのあまのあま

あつちのあつちをさるあまのあまのあま

道冷法師



藤原公成

六

藤原元真

藤原公成

藤原法師

藤原公成

藤原

藤原公成

和泉式部

藤原公成

藤原公成

相模

藤原公成

西宮前大内

藤原公成

兼曆二年の裏

并乳母

藤原公成

六

源道廣

藤原公成

あつちのあつち

堀川藤太

今更紗の袖をたはらひてはなす

その名の通り

藤原園房

思ひ花の衣をたはらひてはなす

半さし

馬場元輔

なまじりたはらひてはなす

よみかた

あつちのあつち

道念法師

あつちのあつち

平兼盛

あつちのあつち

あつちのあつち

中原頼成書

あつちのあつち

あつち

徳河法師

あつちのあつち

相換

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

和泉式部

帯よといふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

わらふらふたふた

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

大貳之位

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

藤原の親

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

源道深

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

相換

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

藤原長経

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

あつゝいふもつたむのまうりしはうらふらふたふた

藤原道信朝臣

しつゝとていふにまはるる事なるをいふ

五月廿五日

和歌武部

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

五月廿五日

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

小辨

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

保道儀

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

酒交事なる居

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

天徳四年丙寅

藤原元真

いふ事なるにまはるる事なるをいふ

たつ

中細衣足袴の御衣

中細衣足袴の御衣

大和宮者

無<sup>あ</sup>き<sup>い</sup>の御衣の御衣

六年

民部卿

若<sup>あ</sup>き<sup>い</sup>の御衣の御衣

六年

若<sup>あ</sup>き<sup>い</sup>の御衣の御衣

若<sup>あ</sup>き<sup>い</sup>の御衣の御衣

女<sup>あ</sup>ら<sup>い</sup>の御衣

思<sup>あ</sup>ひ<sup>い</sup>の御衣の御衣

た<sup>あ</sup>ら<sup>い</sup>の御衣

厚<sup>あ</sup>き<sup>い</sup>の御衣の御衣

永<sup>あ</sup>美<sup>い</sup>六年

う<sup>あ</sup>み<sup>い</sup>は<sup>い</sup>の御衣の御衣

う<sup>あ</sup>み<sup>い</sup>は<sup>い</sup>の御衣

神<sup>あ</sup>の御衣の御衣

和泉式

乃<sup>あ</sup>の御衣の御衣

なる意欲

りつらつとんどのあつたてつたてつたてつたてつた

のあつたてつたてつたてつたてつた

藤原範永朝臣女

おつたてつたてつたてつたてつた

源 一 三 五

のあつたてつたてつたてつたてつた

軽信源ラマキ号ヲ橋ノフスラハシテ藤原範永朝臣ノ

あつたてつたてつたてつた

我ハ意ニイテラシク

入道接政

我意のまじりてつたてつたてつた

大納言道總母

春の野よつたてつたてつたてつた

あつたてつた

入道接政

あつたてつたてつたてつたてつた

永承元年四月夏前合ふてつた

相模

あつたてつたてつたてつたてつた

源川右大臣

あつたてつたてつたてつたてつた

つらあつたる女よ 年暮登

難波さけ乃あはれおのふまうらみへかかぬのる

松嶋むと一箇の娘あはれいせはなまは結ひらぬあはれ  
感妙将

雨の降るやもとらよ女よ

藤原長能

かみり〜あはれおのふまうらみへかかぬのる  
あはれ

和歌入 卷下

源こうあつたる女よ 年暮登  
あはれおのふまうらみへかかぬのる

和歌武部

白濁もあはれおのふまうらみへかかぬのる

後拾遺和歌集第五

雜一

題云々々

吾滋為政朝臣

年有たあひのこころをわらふはなほのこころをわらふ

平治忠信廿

月影のつらき花じよのこころをわらふはなほのこころをわらふ

藤原為時

ちびのこころをわらふはなほのこころをわらふ

船中月とくさのこころをわらふはなほのこころをわらふ

源師賢朝臣

ふたふたのこころをわらふはなほのこころをわらふ

池上月とくさのこころをわらふはなほのこころをわらふ

月影のつらき花じよのこころをわらふはなほのこころをわらふ

後冷泉院時村のこころをわらふはなほのこころをわらふ

大鏡の長席

月影のつらき花じよのこころをわらふはなほのこころをわらふ

連歌のこころをわらふはなほのこころをわらふ

源賴家朝臣

夜ありぬらぬわらふはなほのこころをわらふ

月影のつらき花じよのこころをわらふはなほのこころをわらふ



空あわわつる事か、身、さし、ま、り、し、り、の、  
ま、り、ら、し、る、六、条、の、家、ま、り、ら、し、り、の、  
ま、り、ら、し、る、今、あ、ら、し、る、ま、り、ら、し、り、の、  
ま、り、ら、し、る、あ、ら、し、る、ま、り、ら、し、り、の、  
ま、り、ら、し、る、あ、ら、し、る、ま、り、ら、し、り、の、  
ま、り、ら、し、る、あ、ら、し、る、ま、り、ら、し、り、の、

懐園法師

地、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、  
中、細、言、養、息、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、  
ま、り、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、

永胤法師

あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、

永、永、年、内、裏、哥、合、ま、り、ら、し、る、

侍位

あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、

藤、景、殿、昔、家、哥、合、ま、り、ら、し、る、

塔河右大臣

あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、

大、寺、源

加賀右大臣

あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、あ、ら、し、る、

後月宮素よりまじくともよる

水原清師一

我いああ免つ乃女わあはまはこいけのあわあ  
賀陽院よあはまはまは計家河侍一くあまはま  
はこいあああはこいあはこいあはこいあはこい  
あはこいあはこい

後冷泉院御製

あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい  
月夜中細玄定頼の御よつあはこいあはこい

彈正平清仁親王

あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい  
あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい  
あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい

中細玄定頼

あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい  
あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい  
あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい

藤原範永朝臣

あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい  
あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい  
あはこいあはこいあはこいあはこいあはこい

月影の如くしるべの如くしるべの如くしるべ

月影の如くしるべの如くしるべ

加賀成助

かたはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ  
くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ

くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ

とくしるべ

東院中務

すまはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ

とくしるべ

右院中務

すまはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ

くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ  
くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ

馬場元輔

くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ  
くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ

藤原實細朝臣

くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ  
くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ  
くはちの如くしるべの如くしるべの如くしるべ

藤原元輔

しほもあまのついでにわが國の御事  
并信民部のこといひて絶えよとてあはれん  
か乃女乃があまのついでに法信寺に  
こゝろあまのついでに月夜に

民部御長家

とほもあまのついでに命を授けられたる  
兼房親臣にそのついでに命を授けられたる  
とほもあまのついでに命を授けられたる

侍臣

月夜にわが國の御事いひて絶えよとてあはれん

皇事わが國の御事いひて絶えよとてあはれん

徳為吾朝臣

わが國の御事いひて絶えよとてあはれん  
わが國の御事いひて絶えよとてあはれん  
わが國の御事いひて絶えよとてあはれん  
わが國の御事いひて絶えよとてあはれん  
わが國の御事いひて絶えよとてあはれん  
わが國の御事いひて絶えよとてあはれん

聖梵法師

わが國の御事いひて絶えよとてあはれん  
中開白妙將よわが國の御事いひて絶えよとてあはれん  
わが國の御事いひて絶えよとてあはれん

ふねつと結んで世をたづねつゝいふら

并流流に

伊豆ぬらん命をさしけり此の境も元を  
進つての世にわたりまゝに位なりと見え  
一歩一歩の路乃わたりたる道なりて

三原院御製

ふもわらふ世ありて途にたづねての月影  
後朱雀院の村月のあかりを夜にふ  
乃ほせぬといふ事かきとせぬといふ  
陽明門院

あつて世をたづねての月影  
あつて世をたづねての月影  
あつて世をたづねての月影

小辨

あつて世をたづねての月影  
あつて世をたづねての月影

小武部

あつて世をたづねての月影  
あつて世をたづねての月影  
あつて世をたづねての月影  
あつて世をたづねての月影

清人不知

平風らもあはれはるるに時月よりの命を  
こころいぢるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる

藤原隆子朝臣

あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる

信正深覺

あはれはるるをまじらふるあはれはるる

侍従のあはれはるる  
あはれはるる

藤原範永朝臣

あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる

中倉長國書

あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる  
あはれはるるをまじらふるあはれはるる

大代云道總母

伊の守に... 御守に...

道の橋政... 橋政...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に...

御守に... 御守に...

御守に...

御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に...

御守に... 御守に...

御守に...

御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

御守に... 御守に...

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or administrative document.

Handwritten title or section header in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, continuing the document's content.

Handwritten title or section header in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, including a signature or name at the end.

Handwritten text in Arabic script, starting with a large initial letter.

Handwritten text in Arabic script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in Arabic script, concluding the page's content.





道命法師

わがらふはよむらひのすけにゆく錦浦の海に宿をた  
ねてしるるは世にあらざる命はけしむらふは  
なかるるにあらざる  
しるるはよむらひのすけにゆく錦浦の海に宿をた  
ねてしるるは世にあらざる命はけしむらふは  
なかるるにあらざる  
しるるはよむらひのすけにゆく錦浦の海に宿をた  
ねてしるるは世にあらざる命はけしむらふは  
なかるるにあらざる

むらせきとゆるむら

田内侍

天河宿のあはれをきかして  
源頼光朝臣女よとれくゆるらあらむら  
よふあわらむら

小大君

ころあらぬのねえ道じつ  
大貳國章書あなぬ  
なまらよひつ  
けり

清徳元輔

たゞいふは其の思風の美にさうぶらふては海はしほの  
まこらあお朝長徳かといひさうまはすま  
ゆくらまらふの事といふさうあといひさうあ  
のら為朝朝た力下りてふ乃身の春ま  
さうの許まいさうけぬ

中務の具平親王

いふはたの自もかえりぬさう春の垂りか  
徳直力下りて後軍九日のら朝ま  
いふさうの侍くらふ大江匡衡のいさ  
さのらさういさくくらさるる事

いふさうけぬ

宗王輔親

すみそ地まあけおとさうは海はらあ  
陰奥まかちくらさうまはらおたは  
所まらさういさくくらさるる事  
いふさうけぬ

徳園法師

後弟をあはれあつていふは人まあ  
母まらさういさくくらさるる事  
いふさうけぬ



後朱雀院をせりてうらうらと世にうらうらと事  
ともゆるらうら花のわらうらゆるら

小律

こゝろのこゝろをこゝろみまに梅のわらうらうらと事  
初會た后宮をせりてわらうらうらと事  
梅のこゝろにうらうらと事わらうらと事  
はれはれと事わらうら

舟乳母

わらうらと事わらうらと事わらうらと事  
舟中らうらと事わらうらと事わらうらと事

きん

小律

わらうらと事わらうらと事わらうらと事  
こゝろとわらうらと事わらうらと事  
十月とわらうらと事わらうらと事  
わらうらと事わらうらと事わらうらと事

無文律

わらうらと事わらうらと事わらうらと事  
後朱雀院をせりてわらうらと事  
きんこゝろと事わらうらと事  
わらうらと事わらうらと事わらうらと事



あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち

あつちの事よ

あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち

馬内侍

あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち

新納門

あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち

あつちの事よ

あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち  
あつちの事よふりあつち

和泉武部

あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ

あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ

あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ

塔川右大臣

あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ

あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ

菅原四郎

あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ

たけふまへ

あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ  
あかひのしほのうらみ



大のつぎ相換守よるひあつとん  
よちわく懐ふきよちけい  
えちと女とあつとん

相換

逢坂のせねまのあつとん  
た大將朝光のつとん  
つとん

よみ人あつとん

ねあつとんのつとん  
たつとん

とみらよるつとん

藤原兼平朝臣母

とつとんのつとん  
あつとん

小一条院

暁の鐘はよるつとん  
たつとん  
らつとん  
つとん

和泉式部

侍つるまはれもあはれにいとつらあらばおれとわかれ  
あはれにいとつらあらばおれとわかれ  
し〜計あ

わすれはよき本はたよりあらはらさぬまはれおれとわかれ  
後三条院坊主なるまはれにいとつらあらばおれとわかれ  
前子柳の枝とよきつらあらばおれとわかれ  
まはれにいとつらあらばおれとわかれ  
よきつらあらばおれとわかれ

藤原政總朝臣

まはれにいとつらあらばおれとわかれ

皇居をたのむまはれにいとつらあらばおれとわかれ  
おれにいとつらあらばおれとわかれ  
あはれにいとつらあらばおれとわかれ

後三条院坊主

あはれにいとつらあらばおれとわかれ  
おれにいとつらあらばおれとわかれ  
あはれにいとつらあらばおれとわかれ

馬心侍

おれにいとつらあらばおれとわかれ  
あはれにいとつらあらばおれとわかれ

和泉式部

さらけあはれしやうきをきか  
 めいもつる男酒のちかきしむ  
 ぐあへんひにやよきくちか  
 ねいおきくする酒をうみ  
 のしんちなまぢもあぢうり  
 ぬきまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり

あつるく

えいせいしなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 のしんちなまぢもあぢうり

よめいん

まつりあはれしやうきをきか  
 兼房朝臣のしんちなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり  
 ねえなまぢもあぢうり

中納言三頼

御前御座候御時  
大藏頭通事  
御座候御時

相摸

御座候御時  
大藏頭通事  
御座候御時  
御座候御時  
御座候御時

藤原長能

御座候御時  
御座候御時  
御座候御時  
御座候御時  
御座候御時

馬内侍

御座候御時  
御座候御時  
御座候御時  
御座候御時  
御座候御時

法皇元輔

御座候御時  
御座候御時  
御座候御時  
御座候御時  
御座候御時

赤松東門のむらさき事行けりていふはしるし

右は清將朝臣

いしうきりていふはしるし

也

赤松東門

風はこぼれぬのちいふはしるし

中細玄定頼家とていふはしるし

行行りていふはしるし

けり

いふ

いふはしるし

あつていふはしるし

あつていふはしるし

大江匡衡朝臣

あつていふはしるし

十月しかりていふはしるし

あつていふはしるし

馬田侍

あつていふはしるし

大細玄好成とていふはしるし

あつていふはしるし

あつていふはしるし

あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事

其清作君

あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事

あつちの事

あつちの事

あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事

其清作君

あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事

其清作君

あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事  
あつちの事



はるかにあはれなる御方  
はるかにあはれなる御方

相換

あはれなる御方  
あはれなる御方  
あはれなる御方  
あはれなる御方  
あはれなる御方

和泉武部

あはれなる御方  
あはれなる御方

あはれなる御方

源道演

あはれなる御方  
あはれなる御方

大友朝光

あはれなる御方  
あはれなる御方  
あはれなる御方  
あはれなる御方  
あはれなる御方

中将藤原義家



中務長國

中務長國  
中務長國  
中務長國  
中務長國  
中務長國

律師朝範

律師朝範  
律師朝範  
律師朝範  
律師朝範  
律師朝範

中納言定頼

中納言定頼  
中納言定頼  
中納言定頼  
中納言定頼  
中納言定頼

藤原實方朝臣

藤原實方朝臣  
藤原實方朝臣  
藤原實方朝臣  
藤原實方朝臣  
藤原實方朝臣

大氣成章

Handwritten calligraphy in vertical columns, starting with a large character on the left and continuing with several lines of text.

系自輔親

Handwritten calligraphy at the top of the right page.

上總大輔

Handwritten calligraphy in vertical columns, starting with a large character on the left and continuing with several lines of text.

中文西侍

Handwritten calligraphy in vertical columns, starting with a large character on the left and continuing with several lines of text.

Handwritten text in cursive script, likely a title or introductory line.

和歌武部

Handwritten text in cursive script, continuing the list or entry.

武部令婦

Handwritten text in cursive script, continuing the list or entry.

女將内侍

Handwritten text in cursive script, continuing the list or entry.

和歌武部

Handwritten text in cursive script, continuing the list or entry.

しるしをたがひてしるしをたがひてしるしをたがひてしるしをたがひて

しるしをたがひてしるしをたがひてしるしをたがひてしるしをたがひて

藤原道信御厨

わが家のいふこといふこといふこといふこといふこといふこと

あつた

若菜元真

いふこといふこといふこといふこといふこといふこといふこと

若菜元真

あつた

あつた

後拾遺和評集第十七

雜三

傳中身棟利為刀切のくらのわんあを人のそ  
えはときくくはたあきるくの洋よりくは

清忠元輔

平のうきくわらあをわんくきくの中あをん  
わちよはわんくわんくつくはくくはくはくは

源重三

春にいふくはくはくはくはくはくはくはくは  
つくはくはくはくはくはくはくはくはくは

大井よきわんくはくはくはくはくはくはくは

大正區衛期長

河あよのわんくはくはくはくはくはくはくは

大細よの任宰おまきりわんくはくはくはくは

つくはくはくはくはくはくはくはくはくは

大正為基

世よまきくはくはくはくはくはくはくはくは

つくはくはくはくはくはくはくはくはくは

藤原園行

くわんくはくはくはくはくはくはくはくは

小一系右六将よきわんくはくはくはくはくは

わあゝゝ

源重三

みぢく乃わらわらみぢくわらわら  
後朱雀院の御時夜若に  
よは冷泉院後よりせしむる  
かゝるのら上東門院より

天台座主明使

雲の今白のわらわら  
蔵今を冠かぶする

源経恒

わらわらわらわら

右大辨通後苑人  
ていよう

因防内侍

後冷泉院の御時  
皇武三位のつら

橋為仲朝臣

源次乃わらわら  
甲乙時苑人  
苑人

いづれか入るに候樂日ある

梅後宗

思ふに故乃らみとありまよふに行とやまふし  
世とよみまふしとありあはれゆららに候まふ  
かゝるよるんかゝるん

お大細言と任

いづれか入るに候樂日ある  
年ころあつしとありまよふに行とやまふし  
かゝるよ

藤原兼總朝臣

ら事あらともい思ふらんよまあつとありまよふ

いづれか入るに候樂日ある  
ゆらら返事よけつとありまよふ

藤原元真

君とよまふとありまよふに候  
身乃らつとありまよふに候  
つとありまよふに候  
松とよみ

藤原義家

我がかゝるに候樂日ある  
世とよみまふしとありまよふに候

くしんか

平兼成

吾も今もわに思ふよき言こひくもあはれよ  
かみ成神に成助くまよみ浦うめて酒の  
くしんか冠のきりさかたの事よなひ  
よかん侍々

津守国基

まみらすの申は後れ松のひらきわがら  
はらひはらひよまわりたなけさけり  
つとむしけり 中細玄基長

且毎のさつにおらぬわのきつる浪きりたな

くまらまわりのきりさけりわらわら  
宇治お大政大臣のけりさけりわらわら  
わらわら仲ね長けりさけりわらわら

凍葉後母

まわつる雪のわらわら  
小東院春宮とてさけりわらわら  
位知り侍々さけりわらわら  
みくよかん侍々

塘河津

雪のわらわらさけりわらわら



同院為書女所より今つらき御返り  
に候所より松風守り候御返り  
松風守り候御返り  
中道源  
書と申すは松風守り候御返り  
を申すは松風守り候御返り  
御返り候御返り

藤原為朝信

御返り候御返り  
ことわり候御返り

中納言隆家

御返り候御返り  
五月五日候御返り

小弁

御返り候御返り  
静範法師  
御返り候御返り  
御返り候御返り

藤原為朝信

青のこころをひらきおのれを親命にまかせん

海 大徳三位

ほろろとよみおのれを親命にまかせん

神の御心

まじりておのれを

素意法師

まじりておのれを神の御心にまかせん

丹後國の保良朝臣の御心

おのれを神の御心にまかせん

和泉式部

あはれをいふの麻呂の御心

西宮の御心

すまじりておのれを

おのれを神の御心に

由慶法師

松尾の御心

二条の御心

後醍醐天皇の御心

武部侍

あはれをいふの御心

題云一決

東文女御

大宮の御所より御書に御返事なす

一

東三條院

思ひかたはまの女御に御返事なす御返事なす  
世の中はまの御所より御書に御返事なす  
御返事なす

伴珠大輔

あはれすまの御書に御返事なす御返事なす  
世の中はまの御所より御書に御返事なす

小大若

らからいそむいそむい梅はまの御書に御返事なす

御返事なす

あはれすまの御書に御返事なす御返事なす  
のらあはれすまの御書に御返事なす御返事なす  
くらあはれすまの御書に御返事なす御返事なす  
くらあはれすまの御書に御返事なす御返事なす  
くらあはれすまの御書に御返事なす御返事なす

よみかた

あはれすまの御書に御返事なす御返事なす  
或念に女御衛門守御書に御返事なす御返事なす  
あはれすまの御書に御返事なす御返事なす

あはれなる御心にて後衛乃らりしは  
心よりわらへりてあはれなる御心  
のほせむらり

せしあはれなる御心にて

和泉式部

あはれなる御心にてあはれなる御心  
あはれなる御心にてあはれなる御心  
あはれなる御心にてあはれなる御心  
あはれなる御心にてあはれなる御心

あはれなる御心にてあはれなる御心

あはれなる御心にてあはれなる御心  
あはれなる御心にてあはれなる御心

堀河右大臣

あはれなる御心にてあはれなる御心  
あはれなる御心にてあはれなる御心

中納言定頼

あはれなる御心にてあはれなる御心  
あはれなる御心にてあはれなる御心

赤澤坊

あはれなる御心にてあはれなる御心

世に於ては...  
源順

帯を...  
中用白の...  
方平馬...  
園松法師

...  
文集の...  
大貳音同遠

...  
王昭君...

...  
赤染朱門  
僧部懷壽

...  
懷園法師

...  
入道前...  
念佛

らうたにこゝろはなをわたりてあからやまの  
くわんせいにしるしをいふにまじりて

井のあま

あしづかきまゝに馬の着たれどもおのれ  
修好よ出入り目よみく右馬場乃指し置る  
とららる

増基法師

あまのたしむるははらあかき心よあまに  
かこい侍らるる  
あやふらふにうたふるは

馬内侍

あまのあまのあまのあまのあまのあまの  
おのれに法師一歳なるをうららる

藤原長法

かめらうたのうらまへに  
頼家朝臣とてしるしをいふにまじりて

律師長源

あまのあまのあまのあまのあまのあまの  
中文のまへにあまのあまのあまのあまの  
か

加賀方米門

侍之のたの御とていふことなるまじき御風あり

一

中文内侍

御下り申す御事ありていふことなるまじき御風あり

上東門院ありていふことなるまじき御風あり

一

鑑子内親王

御下り申す御事ありていふことなるまじき御風あり

高階成頼母とていふことなるまじき御風あり

一

よみ人

御下り申す御事ありていふことなるまじき御風あり

一

伴場大捕

御下り申す御事ありていふことなるまじき御風あり

後一条院とていふことなるまじき御風あり

上東門院とていふことなるまじき御風あり

以上東門院とていふことなるまじき御風あり

前中納言殿基

御下り申す御事ありていふことなるまじき御風あり

一

上東門院

御下り申す御事ありていふことなるまじき御風あり

申す所じく侍らる

前大納言任

思ひ申す令あはら母申す事と申す所と申す人御下  
三条院東宮の申す事と申す法師の御下  
うらまはらるる事

藤原俊理

若し令あはらるる事と申す所と申す人御下  
はらるる事

三条院御下

わらわらるる事と申す所と申す人御下  
法師の御下と申す事と申す所と申す人御下

わらわらるる事

前中納言義徳千市

わらわらるる事と申す所と申す人御下  
申す所と申す事と申す所と申す人御下  
申す所と申す事と申す所と申す人御下  
申す所と申す事と申す所と申す人御下

前大納言任

申す所と申す事と申す所と申す人御下  
申す所と申す事と申す所と申す人御下  
申す所と申す事と申す所と申す人御下  
申す所と申す事と申す所と申す人御下

素意法師

申す所と申す事と申す所と申す人御下



一

良運法師

法華經の御書

藤原園房

法華經の御書

律師朝範

法華經の御書

長樂寺の御書

上東門院中将

法華經の御書

後拾遺和評 卷第十八

雑心

則光朝松のまゝとみららるゝあゝとてあはれ  
今の松とて見ゆけり

橋季通

昔の松もあゝとて都へつゝとみらるゝ  
見らるゝいゝもさしとてあゝとてあはれ  
今も松もあゝとて都へつゝとみらるゝ

能因法師

昔の松もあゝとて都へつゝとみらるゝ  
今も松もあゝとて都へつゝとみらるゝ

河原原とて見ゆけり

大の嘉言

里人の心も今もあゝとて都へつゝとみらるゝ  
松もあゝとて都へつゝとみらるゝ

の侍姫

昔の松もあゝとて都へつゝとみらるゝ  
今も松もあゝとて都へつゝとみらるゝ  
松もあゝとて都へつゝとみらるゝ

たつたつた

昔の松もあゝとて都へつゝとみらるゝ  
今も松もあゝとて都へつゝとみらるゝ

六条中務親王家の子孫松とてくはれり  
松のみこ身海よりあはれその松をみくま  
とて計を 徳為善朝臣  
看るに松の節を細くされたるまじき松  
今中の子とてあはれとてあはれとて  
かわるる松を松とてあはれとてあはれ  
とてあはれ

じつらふ

平松とてあはれとてあはれとてあはれ  
縁行不并松とてあはれとてあはれ

大松の師經

平松とてあはれとてあはれとてあはれ  
永承中及内裏奇松とてあはれ

前大宰師賢仲

平松とてあはれとてあはれとてあはれ  
との松とてあはれとてあはれとてあはれ  
とてあはれとてあはれとてあはれ

内製

平松とてあはれとてあはれとてあはれ  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
藤原義孝



あふふふふふふふふふふふふふ

藤原兼房朝長

世にたつらふこころあはれに  
大覚寺にたつらふこころあはれに

兼房朝長

あふふふふふふふふふふふふふ  
法橋にたつらふこころあはれに

源道深

あふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふ

源重光

あふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふ

源重光

あふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふ

よみかたはたのしむる

後三條院の製

後三條院の製と思ふにふしあはれかたのしむる

民部の御信

松平の風吹くはくはる後三條院の製とあはれかたのしむる

苑山院の製ともは熊野の製とあはれかたのしむる

後三條院の製とあはれかたのしむる

東渡法師

後三條院の製とあはれかたのしむる

右大の漢河の製とあはれかたのしむる

よみかたはたのしむる

藤原為長

松平の風吹くはくはる後三條院の製とあはれかたのしむる

よみかたはたのしむる

平棟仲

松平の風吹くはくはる後三條院の製とあはれかたのしむる

苑山院の製ともは熊野の製とあはれかたのしむる

よみかたはたのしむる

源頼實

松平の風吹くはくはる後三條院の製とあはれかたのしむる

熊野の...  
...  
増基法師

...の神...  
...  
赤坂門

...  
...

上東門院信者...  
...  
上東門院新宰相

...  
...  
弁乳母

...  
...  
長柄橋

...  
...

橋...  
...

天皇御幸の御時より御成敗の御事

御成敗

赤深清門

上東門院すまひの御事御成敗の御事

御成敗の御事

伊豫大輔

御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事

道念法師

御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事

御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事  
御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事  
御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事  
御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事

増基法師

御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事  
御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事  
御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事  
御成敗の御事御成敗の御事御成敗の御事



よつりうら 藤原孝善

つねの舟は家ては海も此と念の君のかたむけの  
賀後ふまよりりたるおとこり物取のた  
とのおちぬけりかこはひく侍ら  
とくく亦海より奪れ女のつひはり  
しる

なまらちちあぬ計よる神の祓は侍成つては  
也

いふに神はよけし神はきくはるを  
海つらりるきよきよとれさるる

あまのこゝろ 安法と師

その一むの社にゆきくはるを  
實方朝長女の  
とあし侍らよ女れり  
と海はよき侍れり  
とあまの女も  
とあまの女も

實方朝長

いふに  
いふに  
いふに

御書  
御書  
御書

貫之の集  
貫之の集

惠慶法師

紀時文

紀時文

紀時文

法慈元輔

家集乃

糸之輔親

伊藤大物之集

康資王母

後二系院

口をくきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる

後三条院越前

のり(家)をたてしむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
首にちかちかすは女房月見よあきしわか  
ちかちかよ花人(公)後新が細さつちあねいあ  
たせちかちかすはとれとせしむ侍をたてしむる  
しむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
よあきしわかちかちかすはとれとせしむ侍をたてしむる

後三条院北朝

結風よあきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる

義経のちかちかすはとれとせしむ侍をたてしむる  
みちかちかすはとれとせしむ侍をたてしむる

赤深来り

あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる

あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる  
あきしむるはとれとせしむ侍をたてしむる

ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる

事  
親子の款

ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
良儀法師のうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる

藤原孝若

ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる

ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる

和泉式部

ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる

大藏院賞首

ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる  
ふりかへりていふまゝのうらみはかゝる

馬河侍

ふりけのたのむるは國の御事なれば  
おわりのむすはかたむすむすむす  
まわりのむすむすむすむすむす  
あまのむすむすむすむすむす

藤原の總朝臣

いかにむすむすむすむすむすむす

後拾遺和歌集第十九

雜五

後冷泉院みこれ文と申くら時三葉院ら  
此ころつたはらひるをんふらつら事ゆわ  
んたのみゆるあ

出羽辨

春のよ子の白くはなはてのたのむらもこの松をまよ  
二葉院東宮のよらつら紅くもらつらほよ松  
まきらよ前中宮のころあつらつよたせ  
あひまのあひまのあひまのあひまのあひま

大貳三位

あひまのあひまのあひまのあひまのあひま

出羽弁

春のよ子の白くはなはてのたのむらもこの松をまよ  
後冷泉院みこれ文と申くら時三葉院ら  
一の文れ女房とららひるをんふらつら事ゆわ  
けつよ前中宮のころあつらつよたせ  
ま

源為朝臣

大貳五位のあひまのあひまのあひまのあひまのあひま  
三葉院まきらよ前中宮のころあつらつよたせ

しむる侍らる

道前大政大臣

より世を意通とわたりありたりとわえ

の取

三條院中親政

或云いし哥者さ大御海討子こら下  
らよ侍るを事と大將をたわは  
まあは侍るも出くまはた御いからあり

一條持政の侍る後か將教をうせ  
侍る侍るも思ひ出くま侍る

法住寺大政大臣

らよの御心せしむる御心せしむる  
六条の大臣の御心せしむる後懐  
ゆるるもたつこほいあつる高御心  
りあつる御心せしむる御心せしむる  
事わあつるも侍り

徳相方朝臣

たつ御心せしむる御心せしむる

後一条院に在りてかゝるにけしきありしに  
しるすにけしきありしにけしきありしに  
しるすにけしきありしにけしきありしに  
しるすにけしきありしにけしきありしに

遷子内親王 后白河院

いづれにありしにけしきありしに  
いづれにありしにけしきありしに

まろしきもけしきありしにけしきありしに  
後一条院に在りしにけしきありしに  
いづれにありしにけしきありしに

いづれにありしにけしきありしに

遷子内親王

いづれにありしにけしきありしに  
後一条院に在りしにけしきありしに  
いづれにありしにけしきありしに  
いづれにありしにけしきありしに

上东门院中将

いづれにありしにけしきありしに  
いづれにありしにけしきありしに



〜〜〜

六条院宣旨

此の宣旨は... 院宣旨の文は... 宣旨の旨は... 宣旨の趣意は... 宣旨の施行は...

入道前大臣大臣

宣旨の旨は... 宣旨の趣意は... 宣旨の施行は...

宣旨

宣旨の旨は... 宣旨の趣意は... 宣旨の施行は...

二條前大臣大臣... 宣旨の旨は... 宣旨の趣意は... 宣旨の施行は... 宣旨の旨は... 宣旨の趣意は... 宣旨の施行は...

侍従大輔

年つらむらひに御座りての御事よわらば御座りて  
まことしよすしとわらば御座りての御事よわらば

冷泉院東宮と申しける時女乃石井よ東宮より  
うらよわらむらむらと申しける時女乃石井よ東宮より

源重光

うらよわらむらむらと申しける時女乃石井よ東宮より  
春のうらよわらむらむらと申しける時女乃石井よ東宮より

花山院御製

三東院御製  
三東院御製  
三東院御製  
三東院御製

侍従大輔

小堀の御事よわらば御座りての御事よわらば  
小堀の御事よわらば御座りての御事よわらば

侍従大輔

一条院の御事よわらば御座りての御事よわらば  
一条院の御事よわらば御座りての御事よわらば

思ひおぼしき御事候に御座り申上り候へども  
侍り申上り候へども

伊勢大輔

と申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
中絶之實成宰相と申す事候へども御座り申上り候  
よと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
かろと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
かろと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
かろと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
かろと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候

おしんかゝる事候へども御座り申上り候へども  
つと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候

よえん人

おしんかゝる事候へども御座り申上り候へども  
かろと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
よと申すは御事の事申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候  
事候へども御座り申上り候へども御座り申上り候

なとれくしんあ申まのいんあなわ  
白くたあくくあみ乃くよあてい  
あゆりつ

藤原長能

い草のく新ひらひんすのあな  
たあ人のあ節はあまのあな  
あはあまあああああああ  
あはあああああああああ  
あはあああああああああ  
あはあああああああああ

鑑子四親王

神代りあらああああああああ

一藤院のあああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ

藤原實方朝臣

ああああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ

源頼家朝臣

ああああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ

今こそとてなまじらまわつて侍るは  
ぬぬとてしあまの御心は

法眼源賢

思ひかたきまのむらさきよの世に  
らうきまのならぬとてふらん

平山家

信濃がらをぬるまじらわぬは  
一宗院淨時大威佑理つらよ侍りし  
本町のまじらふは

よせ侍りらまじら

源重之

都へとて松をうらむらとせよ  
父のまじらふは  
このら成願まじらまじら

中將后

そ乃まじらひ残し  
阿波守まじらふは  
下まつよつるのうと

あふんはけふ 有愛基高初也

こつたの浦よりとくを流したるこころよあつらふ事  
頼國朝於紀伊守よりくゆるる可く事  
事ありふかやうてくらとさしつゝはまの  
さわかむてよんはけふ

連教法師

光の殿をせしめ今もまはつたとのとちの浦ま  
肥後守義清くさゆりあつらふ事  
野ねたふんまこころよあつらふ事  
海軍よりけふ

源兼長

つらつらつ馬とよむの好まむ事  
あつらふ事  
つらつらつ馬とよむの好まむ事

康清の母

あつらふ事  
つらつらつ馬とよむの好まむ事  
あつらふ事

あつらふ事

みちのくあつりやふよしの言が  
お長のもよほりうらうら

藤原實方朝臣

なすいふ言のまはらふあつりよのあつらふ言の  
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

みちのくあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり  
實方朝臣あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

大江匡衡朝臣

都をいふ言のまはらふあつりあつりあつりあつりあつりあつり

あ

藤原實方朝臣

みちのくあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり  
橋津園あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

在深志門

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

乃

持てしむる心なほけりていふはなほあはれい  
石よりいふ事ありみらよ山をいふとて  
いふ事ありて家あるのうらあらし  
みえはあはれいといふことありていふ事  
よよよといふこといふ事

和泉武部

帰るよとまら心なほけりていふはなほあはれい  
山陽寺供養の後之治前大臣の  
ついでいふ 壺河右大臣  
あつたといふこといふ事

お里よとまら心なほけりていふはなほあはれい  
家らよとまら心なほけりていふはなほあはれい  
誰はよとまら心なほけりていふはなほあはれい  
破の箱のうらあらし

伊豫大物

こもたりの旅なほありていふはなほあはれい  
お里よとまら心なほけりていふはなほあはれい

源頼實

目もたれぬ念帰るお里よとまら心なほありていふはなほあはれい  
伏見よとまら心なほありていふはなほあはれい



おのれをいふはまゝに

楠後徳朝臣

おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに

よみ人あはれ

おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに

思ひ出さく

蓮仲法師

おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに

大中臣能直朝臣

おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに  
おのれをいふはまゝに

ようきんしつあくら銀みこききんくわ  
しよのしんくわくしんくわしんくわ  
あまのしんくわくわくしんくわ

相換

しんくわくわくしんくわくわくしんくわ  
しんくわくわくしんくわくわくしんくわ  
しんくわくわくしんくわくわくしんくわ

六中后徳直朝臣

と藤原のまきしんくわくわくしんくわ  
法師のまきしんくわくわくしんくわ

源重光

しんくわくわくしんくわくわくしんくわ  
しんくわくわくしんくわくわくしんくわ  
しんくわくわくしんくわくわくしんくわ

藤原為朝朝臣

しんくわくわくしんくわくわくしんくわ  
小倉の家よすしんくわくわくしんくわ  
しんくわくわくしんくわくわくしんくわ  
しんくわくわくしんくわくわくしんくわ



天竺寺の御願

慶範法師一

天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願

師前山太郎

天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願

天竺寺の御願

天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願  
天竺寺の御願

後拾遺和歌集卷第二十

袖紙 雜六

長元元年六月十七日停境九月五日交  
しつり侍るるは像より雨より風吹く  
思つて後宮へお入り輔親と決りて  
おまの御事あり仰られらるる  
おまの御事あり仰られらるる  
おまの御事あり仰られらるる

あつちあつちの秋のめをねたらぬ

和歌まのけり 糸の輔親

なつららるる御子けりつらみまふら

男より侍りける貴布孫おのより  
あつち河を渡るはつらみまふら

らみまふら

おまの御事あり仰られらるる

おまの御事

おまの御事あり仰られらるる

色めく和歌式部二年おまの御事あり  
おまの御事あり仰られらるる

毎朝の御祈り  
今もあはれま  
とて

藤原長能

白鳥の御祈り  
今もあはれま  
とて

藤原の御祈り

惠慶法師

今もあはれま  
とて

源兼盛

今もあはれま  
とて

後三條院御所より一日の御幸あり侍り侍り  
あつたはるきしよしよし御所より侍り侍り  
よかえり侍り侍り

大貳書政

あつたはるきしよしよし御所より侍り侍り  
はるきしよしよし御所より侍り侍り  
よしよし御所より侍り侍り

藤原御衛

らるる神代りながらよしよし御所より侍り侍り  
大貳野交りよしよし御所より侍り侍り

らるる神代りながらよしよし御所より侍り侍り

治部御侍

神代りながらよしよし御所より侍り侍り  
武部大輔資業侍り侍り御所より侍り侍り  
三條御所よりよしよし御所より侍り侍り  
よしよし御所より侍り侍り

能因法師

よしよし御所より侍り侍り  
大貳御所より侍り侍り御所より侍り侍り  
治部御所よりよしよし御所より侍り侍り  
よしよし御所より侍り侍り

よん金に

お先の方へは神女もあはれまはさるるに

なまはるるに

増基法師

こゝろにまはるるに

よまはるるに

蓮仲法師

後方の松丸つえよ

石橋のよまはるるに

よまはるるに

よまはるるに

瀧

しほの松丸つえよ

貴布祿よまはるるに

お忍時庵

お忍時庵

後冷泉院

よまはるるに

藤原範永朝行

けつりつみ





ついでに... 攝法... 因防... せ...

并乳母

八重菊... 右... くら...

康高王母

ら... ね... くら... くら... くら...

よかん

も... 月輪... 月輪...

信部覚起

の... 事...

維摩經十卷の... 乃かたき道... といふ

いふこと

第六の... といふ

同案の中よこの... といふ

いふこと

小辯

常あぬ... といふ

三身唯一心

伊勢大補

中將一

いふこと... といふ

紀波宗品

赤澤宗門

いふこと... といふ

康賢王母

いふこと... といふ

五百弟子品

赤坂清門

いふこと... といふ

壽量品

康賢王母

いふこと... といふ

普門品

第六の... といふ

いふこと... といふ

書寫の... といふ

いふこと... といふ

久松の松をたふす松の松

遊女宮本

津の園に難ぬの松と法ありあそひたそあ松とと歌  
詠諧奇

たつす 續今と歌

治ぬの松をたつすの松をたつすの松をたつす  
梅季通みらの松をたつすの松をたつす  
よみ侍あけらよつすの松と今とみ侍  
つたの松とみ侍あつすの松とみ侍  
らら 傳正保え

そけの松をたつすの松をたつすの松をたつす

たつす 源道源

はつすの松をたつすの松をたつすの松をたつす

藤原實方朝臣

まつすの松をたつすの松をたつすの松をたつす

とたつすの松をたつすの松をたつすの松をたつす

大江嘉言

松の松をたつすの松をたつすの松をたつす  
三条太政大臣の松をたつすの松をたつす  
松の松をたつすの松をたつすの松をたつす

とて...  
...  
...  
...  
...

藤原実方朝臣

...  
...  
...

和泉式部

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

皇太后文隆奥

...  
...  
...  
...  
...

堀河右大臣

...  
...  
...  
...  
...

増基法師

...  
...  
...  
...  
...



上向いれつゝのりあわさるを後草よりみきて  
入道格政のれいよきよきよきよきよきよきよ  
ころ播乃らららららららららららららららら  
こあららららららららららららららららららら  
つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大細玄道徳母

思いつく事まわらぬをみるにわらわらわらわら  
くみまらららららららららららららららららら

徳因法師

白浪のらあはらあはらあはらあはらあはらあはら  
あはらあはらあはらあはらあはらあはらあはらあはら  
そくゆあはらあはらあはらあはらあはらあはら

大江直衛朝臣

とやうとやうとやうとやうとやうとやうとやうとやう

赤澤忠行

はらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

わえらわえらわえら

